HOKUGA 北海学園学術情報リポジトリ
学校法人北海学園
北海学園大学
北海商科大学

タイトル	彙報・活動・編集後記・規定
著者	
引用	年報新人文学(19)
発行日	2022-12-25

Hokkai-Gakuen Organization of Knowledge Ubiquitous through Gaining Archives.

【彙報】

令和三年度 **大学院文学研究科**

❖学位論文題目一覧

修士学位論文

●日本文化専攻修士課程

氏名	修士論文題目
蟬塚　咲衣	祭礼の可視化とアーカイブ ―奥尻島における震災からの復興と継承過程を事例に―

❖授業科目及び担当者　※非常勤科目は実際に開講した科目のみ

●日本文化専攻博士（後期）課程

授業科目	担当教員
日本言語・思想文化論文指導特殊演習ⅠA	テレングト・アイトル　教授
日本言語・思想文化論文指導特殊演習ⅠB	テレングト・アイトル　教授
日本言語・思想文化論文指導特殊演習ⅠC	テレングト・アイトル　教授
日本言語・思想文化論文指導特殊演習ⅡA	鈴木英之　教授
日本言語・思想文化論文指導特殊演習ⅡB	鈴木英之　教授
日本言語・思想文化論文指導特殊演習ⅡC	鈴木英之　教授
日本言語・思想文化論文指導特殊演習ⅢA	田中　綾　教授
日本言語・思想文化論文指導特殊演習ⅢB	田中　綾　教授
日本言語・思想文化論文指導特殊演習ⅢC	田中　綾　教授
日本言語・思想文化論文指導特殊演習ⅣA	徳永良次　教授
日本言語・思想文化論文指導特殊演習ⅣB	徳永良次　教授
日本言語・思想文化論文指導特殊演習ⅣC	徳永良次　教授
日本言語・思想文化論文指導特殊演習ⅤA	大谷通順　教授
日本言語・思想文化論文指導特殊演習ⅤB	大谷通順　教授
日本言語・思想文化論文指導特殊演習ⅤC	大谷通順　教授
日本言語・思想文化論文指導特殊演習ⅦA	大石和久　教授
日本言語・思想文化論文指導特殊演習ⅦB	大石和久　教授
日本言語・思想文化論文指導特殊演習ⅦC	大石和久　教授
日本歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅡA	郡司　淳　教授

授業科目	担当教員
日本歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅡB	郡司　淳　教授
日本歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅡC	郡司　淳　教授
日本歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅢA	手塚　薫　教授
日本歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅢB	手塚　薫　教授
日本歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅢC	手塚　薫　教授
日本歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅣA	須田一弘　教授
日本歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅣB	須田一弘　教授
日本歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅣC	須田一弘　教授

●英米文化専攻博士（後期）課程

授業科目	担当教員
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅠA	田中洋也　教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅠB	田中洋也　教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅠC	田中洋也　教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅡA	米坂スザンヌ　教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅡB	米坂スザンヌ　教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅡC	米坂スザンヌ　教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅢA	上野誠治　教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅢB	上野誠治　教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅢC	上野誠治　教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅣA	佐藤貴史　教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅣB	佐藤貴史　教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅣC	佐藤貴史　教授
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅠA	柴田　崇　教授
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅠB	柴田　崇　教授
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅠC	柴田　崇　教授
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅡA	大森一輝　教授
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅡB	大森一輝　教授
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅡC	大森一輝　教授
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅢA	小松かおり　教授
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅢB	小松かおり　教授

授業科目	担当教員
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅢC	小松かおり　教授
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅣA	仲松優子　教授
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅣB	仲松優子　教授
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅣC	仲松優子　教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅤA	渡部あさみ　教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅤB	渡部あさみ　教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅤC	渡部あさみ　教授

●日本文化専攻修士課程

授業科目	担当教員
日本文学特殊講義Ⅰ	関本真乃 准教授
日本文学特殊講義演習ⅠA	関本真乃 准教授
日本文学特殊講義演習ⅠB	関本真乃 准教授
日本文学特殊講義Ⅱ	田中 綾 教授
日本文学特殊講義演習ⅡA	田中 綾 教授
日本文学特殊講義演習ⅡB	田中 綾 教授
日本文学特殊講義Ⅲ	中村三春 講師
比較文学特殊講義Ⅰ	テレングト・アイトル 教授
比較文学特殊講義演習ⅠA	テレングト・アイトル 教授
比較文学特殊講義演習ⅠB	テレングト・アイトル 教授
比較文学特殊講義Ⅱ	大谷通順 教授
比較文学特殊講義演習ⅡA	大谷通順 教授
比較文学特殊講義演習ⅡB	大谷通順 教授
日本思想特殊講義Ⅰ	鈴木英之 教授
日本思想特殊講義演習ⅠA	鈴木英之 教授
日本思想特殊講義演習ⅠB	鈴木英之 教授
日本思想特殊講義Ⅱ	大石和久 教授
日本思想特殊講義演習ⅡA	大石和久 教授
日本思想特殊講義演習ⅡB	大石和久 教授
日本語研究特殊講義Ⅰ	丸島 歩 准教授
日本語研究特殊講義演習ⅠA	丸島 歩 准教授

授業科目	担当教員
日本語研究特殊講義演習ⅠB	丸島 歩 准教授
日本語研究特殊講義Ⅱ	徳永良次 教授
日本語研究特殊講義演習ⅡA	徳永良次 教授
日本語研究特殊講義演習ⅡB	徳永良次 教授
比較言語研究特殊講義·jⅠ	寺田吉孝 教授
比較言語研究特殊講義演習·jⅠA	寺田吉孝 教授
比較言語研究特殊講義演習·jⅠB	寺田吉孝 教授
日本史特殊講義Ⅰ	片岡耕平 准教授
日本史特殊講義演習ⅠA	片岡耕平 准教授
日本史特殊講義演習ⅠB	片岡耕平 准教授
日本史特殊講義Ⅱ	郡司 淳 教授
日本史特殊講義演習ⅡA	郡司 淳 教授
日本史特殊講義演習ⅡB	郡司 淳 教授
日本史特殊講義Ⅲ	東 俊佑 講師
環境文化特殊講義·jⅠ	手塚 薫 教授
環境文化特殊講義演習·jⅠA	手塚 薫 教授
環境文化特殊講義演習·jⅠB	手塚 薫 教授
環境文化特殊講義·jⅡ	須田一弘 教授
環境文化特殊講義演習·jⅡA	須田一弘 教授
環境文化特殊講義演習·jⅡB	須田一弘 教授

●英米文化専攻修士課程

授業科目	担当教員
英米文学特殊講義Ⅰ	渡部あさみ 教授
英米文学特殊講義演習ⅠA	渡部あさみ 教授
英米文学特殊講義演習ⅠB	渡部あさみ 教授
英米文学特殊講義Ⅱ	森川慎也 准教授
英米文学特殊講義演習ⅡA	森川慎也 准教授
英米文学特殊講義演習ⅡB	森川慎也 准教授
英語研究特殊講義Ⅰ	上野誠治 教授
英語研究特殊講義演習ⅠA	上野誠治 教授
英語研究特殊講義演習ⅠB	上野誠治 教授
英語研究特殊講義Ⅱ	米坂スザンヌ 教授
英語研究特殊講義演習ⅡA	米坂スザンヌ 教授
英語研究特殊講義演習ⅡB	米坂スザンヌ 教授
英語研究特殊講義Ⅲ	田中洋也 教授
英語研究特殊講義演習ⅢA	田中洋也 教授
英語研究特殊講義演習ⅢB	田中洋也 教授
英語研究特殊講義Ⅳ	ブシャー・ジェレミ 准教授
英語研究特殊講義演習ⅣA	ブシャー・ジェレミ 准教授
英語研究特殊講義演習ⅣB	ブシャー・ジェレミ 准教授
欧米思想特殊講義Ⅰ	小柳敦史 准教授
欧米思想特殊講義演習ⅠA	小柳敦史 准教授
欧米思想特殊講義演習ⅠB	小柳敦史 准教授
欧米史特殊講義Ⅰ	仲丸英起 准教授
欧米史特殊講義演習ⅠA	仲丸英起 准教授
欧米史特殊講義演習ⅠB	仲丸英起 准教授
欧米史特殊講義Ⅱ	大森一輝 教授
欧米史特殊講義演習ⅡA	大森一輝 教授
欧米史特殊講義演習ⅡB	大森一輝 教授
欧米史特殊講義Ⅲ	仲松優子 教授
欧米史特殊講義演習ⅢA	仲松優子 教授
欧米史特殊講義演習ⅢB	仲松優子 教授
環境文化特殊講義eⅠ	小松かおり 教授
環境文化特殊講義演習eⅠA	小松かおり 教授
環境文化特殊講義演習eⅠB	小松かおり 教授
環境文化特殊講義eⅡ	柴田 崇 教授
環境文化特殊講義演習eⅡA	柴田 崇 教授
環境文化特殊講義演習eⅡB	柴田 崇 教授

文学研究科教育・研究発表活動

◎二〇二二年度　第一回全体ゼミ（中間報告）

七月二日（土）10：40～11：40、21番教室にて開催された。修士課程二年に在学する二名の院生が次の題目で論文の構想とその内容の一部を発表した（参加者約30名）。

長田　直美「現代短歌における社会詠の位相―癒しと救いをキーワードに―」

西村　秋桜「ディズニーヒロインの談話―『断り』の発話行為から見る女性の談話の変容―」

◎二〇二二年度　第二回全体ゼミ（中間報告）

十一月五日（土）10：00～11：00、C31番教室にて開催された。修士課程二年に在学する二名の院生が次の題目で論文の構想とその内容の一部を発表した（参加者約30名）。

福井　花也「G．E．レッシングによる寓話における神々の役割」

西村　秋桜「1930年代から2020年代までのディズニーヒロインの「断り」の変容―発話行為から見る言語変化とそれに伴う社会的変化について―」

◎北海学園大学人文学会第十回大会

二〇二三年一月二十一日（土）12：30～14：10

本学D30番教室にて人文学会第十回大会が開催された。今大会は「言語と文化からウクライナを理解する」というテーマで、人文学部教授の寺田吉孝先生、金沢大学国際機構専門業務職員のテチャーナ・ハターエヴァ先生、ハリコフ大学元准教授のリュドミーラ・ベイ先生にご発表いただいた。

寺田先生は「ウクライナというところ―地理と歴史の復習―」と題して、同国の主要地域と九世紀以降のウクライナ、ベラルーシ、ロシアの主要な史実を解説された。ウクライナでは地域ごとにさまざまな国家や部族による支配があったこと、とくにウクライナ西部ハルィチナー地域では十四世紀から二〇世紀まで、ポーランド（18世紀末から20世紀初までオーストリアの支配下にあった）による支配があった歴史的事実について解説された。また「ウクライナ語正書法史」と題して、ウクライナ独自の正書法の確立に至る歴史やハルィチ

ナー地域におけるポーランド語の影響についてもご発表いただいた。

ハターエヴァ先生はzoomでご参加され、「ウクライナの木造教会堂建築―歴史的背景及び構成上の特質―」と題して、ウクライナにおける教会堂建築史についてご発表いただいた。十世紀のキリスト教化に始まり、初期の石造建築の教会堂、十九世紀のロシア教会会議による教会建築様式の統一化、一九九〇年の聖ソフィア大聖堂の世界遺産認定、二〇一八年のウクライナ正教会の設立などに触れられ、ウクライナ西部に多く現存している木造教会堂、教会堂の平面図、ウクライナ独自の教会建築様式として「ザロム」(多層式塔)を画像等で紹介された。

ベイ先生のご発表「ウクライナにおけるロシア語とウクライナ語」は、寺田先生によって翻訳・代読された。ベイ先生は、ハリコフ大学で留学生にウクライナ語とロシア語を、ウクライナ人学生には「ウクライナ学」を教えてこられた。近年高等教育機関でウクライナ語による授業が必須となっているためロシア語地域(ウクライナ東部、南部、中央の諸都市)で学ぶ留学生が苦労していること、国家レベルでロシア語が排斥されていること、国勢調査等で自らをロシア人であると回答する人の数が減少していることを紹介された。ご自身も単一の国家言語(ウクライナ語)を支持するものの、他の言語を圧迫したり排除したりする国家政策には反対であると述べられた。

ベイ先生の報告の補足として、寺田先生が実際にウクライナ国内の多くの都市や村を訪問されたご経験とウクライナを取材したあるテレビ番組におけるキエフの人々の言語使用を参考にして、ウクライナの統計資料にある言語使用状況と実際の言語使用状況との乖離についてご説明された。

編集後記

編集後記

◉『年報新人文学』第一九号をみなさまにお届けします。本号は巻頭言、論文四編、解説記事、同記事の著者へのインタビューを収めています。本号の論文は北海学園大学大学院文学研究科に在籍する大学院生と修了生によって執筆されたもので、いずれも重厚で野心的な力作となっています。執筆者のみなさま、厳正な査読を引き受けてくださった査読者の方々に心よりお礼申し上げます。

◉巻頭言は、二〇二三年三月で定年退職される寺田吉孝教授に「スロボジャンシチナという地域」と題して、ロシア南部とウクライナ北東部に広がる地域について論じていただきました。寺田先生ご自身が一九九七年にウクライナのハルキウを訪れられた際に旧友のマリーヤ先生たちと親睦を深められたこと、スロボジャンシチナがロシアとウクライナのそれぞれの文化や言語が混在する特色ある地域であることなど、同地域の背景を詳細に解説されています。また二〇二二年のウクライナ危機以降、ウクライナ国内の言語状況が目に見えて変容しているという最新の情報もご紹介くださいました。

◉掲載論文は、博士課程に在籍する三名の大学院生と本研究科修士課程の修了生一名から投稿いただきました。どの論文も先行研究を丁寧に精査したうえで著者独自の見解を提示した意欲的な論考です。髙嶋熙和氏の「第一次吉田茂内閣における石橋湛山―政治家への転身と挫折―」は石橋湛山の政治家としての特質を明らかにすべく、宰相吉田茂との関係や石橋の政治家としての軌跡をたどり直し、斬新な解釈を打ち出しています。伊藤翔太氏の「嵯峨天皇と浄行僧―怨霊対策の視点から―」は、嵯峨天皇が浄行僧に施物を行った事実に着目し、その背後に怨霊を鎮める能力を備えた浄行僧に対する嵯峨の信仰があったと論じ、御霊信仰につながる怨霊慰撫の系譜を明確に示しています。孔継金氏の「戦国期山科本願寺寺内町と在地寺院との関係について―西宗寺と興正寺を中心に―」は、寺内町における在地寺院の宗教的繋がりを考察し、山科本願寺に参入した寺院に対する蓮如の態度の考察も射程に入れた論文です。令和三年度に修士課程を修了し、現在は小樽市総合博物館で学芸員として勤務されている蟬塚咲衣氏の「博物館展示における民俗芸能―北海道の四ヶ散米行列を事例に―」は、北海道特有の民俗芸能である四ヶ散米行列を事例として取り上げ、伝承過程や伝承

元と伝承先の関係、各地域における実施状況、採物の比較、博物館における四ヶ散米行列の表象を考察しています。学芸員の仕事と研究との両立は困難を伴うと思いますが、今後もご研究に励まれることを期待します。本研究科には今号の優秀な投稿者の他にも着実に研究を進めている大学院生が多数在籍しています。本誌のような査読を経て論考が掲載される学術誌はみずからの研究を練磨するのに最適の場ですので、力試しのつもりで奮ってご投稿ください。査読者による講評は研究を進めていくうえで大きな力になることを実感できるでしょう。教員の方々からも刺激的な論文のご投稿を心よりお待ちしています。

◉本号から新企画が始動しました。「解説シリーズ――今、何が起きているのか?」と題した解説記事のシリーズ化です。より開かれた学術誌を目指し、人文学部及び文学研究科所属の教員や他大学の研究者が最新の研究動向や巷で話題になっている社会・文化事象を解説する記事です。企画の趣旨は本号所収のインタビュー記事の冒頭をご覧ください。第一回のテーマは昨今巷間を賑わせているメタバースです。メディア論やサイボーグ論をご専門とする柴田崇教授に解説記事をご執筆いただきました。メタバースの定義やメタバースをめぐる言説、その利点と深刻な問題点、そして展望など、メディアから人工物に至るまで多岐にわたる視点から縦横無尽に論じていただきました。解説に続くインタビュー記事では、編集委員の森川が聞き手となり、メタバースについてより噛み砕いた言葉で柴田先生に語っていただきました。本誌読者のみなさまにお読みいただき、願わくは学究の源泉となる知的好奇心をかき立てることができれば幸いです。次号もお楽しみください。

（須田一弘・森川慎也）

『年報 新人文学』投稿規定

一、『年報 新人文学』は、人文学に関する広範な分野の研究成果を掲載し、内外の研究交流を図ることを目的とし、年一回発行を原則とする。

二、投稿原稿の著者は、人文学部及び文学研究科の所属者でなければならない。ただし編集委員会が認めた場合はその限りではない。

三、原稿は日本語、あるいは英語とし、種類と分量はそれぞれ次のとおりとする。

①原著論文で未発表のもの、日本語なら二〇、〇〇〇字、英語なら一〇、〇〇〇字程度。

②研究ノート・資料・報告など、日本語なら一二、〇〇〇字、英語なら六、〇〇〇字程度。

③書評など、日本語なら四、〇〇〇字、英語なら二、〇〇〇字程度。

④その他、編集委員会が必要と認めたもの。

四、原稿は編集委員会で厳正な審査を行い、採否を決定する。編集委員会は査読結果に基づき、原稿の一部変更を求めることがある。

北海学園大学大学院文学研究科
『年報 新人文学』編集委員会